

多次元立方体の離散的ランダムパッキング による充填率について

統計数理研究所 伊 藤 栄 明
" 上 田 澄 江

(1983年5月 受付)

球状粒子をランダムに充填する物理的な実験は以前から行なわれている (Bernal and Mason [2], Higuti [6]). これについての計算機シミュレーションも最近は多く行なわれている (Tanemura [9] 等). ここでは球状粒子ではなく, m 次元立方体を向きをそろえてランダムに充填していくという問題について議論する. 一次元の場合, 様々な確率論的研究があるが (Rényi [8], Dvoretzky and Robbins [5], Itoh [7]), 2次元以上の場合, 解析的な結果は得られていないようである. 辺の長さが十分長い m 次元立方体への, m 次元単位立方体によるランダムパッキングの充填率の期待値は一次元の場合の充填率の期待値の m 乗になるという予想がよく知られている. これは Palásti の予想といわれているが, $m=2, 3, 4$ の場合, 計算機実験により否定されたようである (Blaisdell and Solomon [3], [4], Akeda and Hori [1]). Blaisdell と Solomon [4] は4次元までの結果は Palásti の予想より大きく, その差は次元とともにひらいていくと述べている. 本稿においては高い次元の充填率を考察するためにもっとも単純な場合に議論を限る. 先ず, 計算機実験によらずに数値計算により, 期待値を求める. この方法では計算時間がかかり3次元までの値しか得られない. しかし, これにより精度の高い値が得られるだけでなく計算機実験の結果を確認することができる. 次に, 計算機実験により11次元までの値を求め, 次元が十分に大である場合の充填率について考える.

一辺の長さ $2n$ の m 次元の立方体があるとする. その中に一辺が長さ n の m 次元の立方体を大きい方の立方体に平行にランダムにつめていく. 一辺が長さ $2n$ の m 次元立方体の 2^m 個の頂点の位置は, 各要素が 0 あるいは $2n$ である m 次元のベクトルで表わすことができる. 次に, 各要素が 0 あるいは n であるベクトルを 2^m 個の頂点として持つ m 次元立方体を考える. この立方体の位置を m 次元ベクトル $\vec{0} = (0, 0, \dots, 0)$, により表わすものとする. この立方体を各要素が 0 から n までの自然数の値をとる m 次元ベクトル \vec{A} により平行移動した $(n+1)^m$ 個の立方体を考える. これらの各々を n^m 立方体とよび, その位置を \vec{A} により表わすことにする. $(n+1)^m$ 個の n^m 立方体の中から等確率で \vec{A}_1 をえらび, 次に \vec{A}_2 は \vec{A}_1 とまじわらない n^m 立方体, すなわち $\vec{A}_2 - \vec{A}_1$ の各要素の絶対値の最大値が n 以上になっている n^m 立方体,

表1 数値計算によって求めた充填率 ($n=2$)

次元 m	1	2	3
充填率 E_m	0.83333333	0.70925926	0.61622176
充填率の標準偏差	0.23570226	0.21986403	0.17860018
項の数	3	53	137911

```

PROGRAM SAMPLE                                00000010
LCUBE = 4                                     00000020
LONG = 2                                      00000030
M = 3                                         00000040
CALL MDPACK (LCUBE, LONG, M)                 00000050
STOP                                          00000060
END                                            00000070
C                                              00000080
C                                              00000090
SUBROUTINE MDPACK (LCUBE, LONG, M)           00000100
THIS SUBROUTINE CALCULATES EXPECTATION OF PACKING DENSITY
PACKING M DIMENSIONAL CUBES WITH LENGTH 'LONG' INTO M DIMENSIONAL
CUBE WITH LENGTH 'LCUBE'.                   00000110
CUBES WITH LENGTH 'LCUBE'.                 00000120
SIZES OF ARRAYS IA(1,J,K), IC(1,J,K), NA(K), NC(K), P(K):
I IS GREATER THAN OR EQUAL TO M,          00000130
J IS GREATER THAN OR EQUAL TO (LCUBE-LONG+1)*M, AND
K IS GREATER THAN OR EQUAL TO (LCUBE/LONG)*M. 00000140
C                                              00000150
C                                              00000160
INTEGER*2 IA(3,343,64), IC(3,343,64), NA(64), NC(64)
REAL*16 P(64), SUMP, SUM                    00000170
C                                              00000180
C                                              00000190
C                                              00000200
INITIALIZATION                               00000210
LONG1 = LCUBE - LONG + 1                    00000220
LONGM = LONG1 ** M                          00000230
DO 20 I=1,M                                  00000240
  IJ = 0                                     00000250
  ID = LONG1 ** (I-1)                        00000260
  DO 20 J=1,LONGM                            00000270
    IJ = IJ + 1                               00000280
    IJD = (IJ-1) / ID                         00000290
    MIJ = MOD(IJD,LONG1)                      00000300
    IA(I,IJ,1) = MIJ                          00000310
  20 IC(I,IJ,1) = MIJ                          00000320
  L = 1                                       00000330
  ICOUNT = 0                                00000340
  SUMP = 0.0                                  00000350
  P(1) = 1.000 / LONGM                       00000360
  NA(1) = LONGM                               00000370
  NC(1) = LONGM                               00000380
C                                              00000390
CALCULATION OF PACKING DENSITY              00000400
ITER = 0                                     00000410
100 ITER = ITER + 1                          00000420
IF (L .EQ. 0) GO TO 300                     00000430
NLANG = 0                                    00000440
NCL = NC(L)                                  00000450
DO 130 I=1,NCL                               00000460
  IACMAX = 0                                  00000470
  DO 110 J=1,M                                 00000480
    IAC = IA(J,I,L) - IC(J,I,L)              00000490
  110 IACMAX = MAX(IACMAX, ABS(IAC))           00000500
    IF (IACMAX .LT. LONG) GO TO 130           00000510
  NLANG = NLANG + 1                          00000520
  DO 120 J=1,M                                 00000530
    IA(J,NLANG,L+1) = IA(J,I,L)              00000540
  120 IC(J,NLANG,L+1) = IC(J,I,L)            00000550
C                                              00000560
130 CONTINUE                                 00000570
IF (NLANG .EQ. 0) GO TO 200                 00000580
L = L + 1                                    00000590
NA(L) = NLANG                                00000600
NC(L) = NLANG                                00000610
P(L) = P(L-1) / NA(L)                       00000620
GO TO 100                                    00000630
C                                              00000640
200 SUMP = SUMP + P(L) * L                    00000650
ICOUNT = ICOUNT + 1                          00000660
210 IF (NA(L) .GE. 2) GO TO 220              00000670
L = L - 1                                    00000680
IF (L .EQ. 0) GO TO 300                     00000690
NA(L) = NA(L) - 1                            00000700
IF (NC(L) .EQ. 0) GO TO 210                 00000710
NAL = NA(L)                                  00000720
DO 230 I=1,NAL                               00000730
  DO 230 J=1,M                                 00000740
  230 IC(J,I,L) = IC(J,I+1,L)                00000750
GO TO 100                                    00000760
C                                              00000770
300 SUM = SUMP / (LCUBE/LONG)*M              00000780
WRITE(6,*) LCUBE, LONG, M, SUMP, ICOUNT    00000790
6500 FORMAT(1H0, ' LENGTH OF A CUBE=', I3, 00000800
1 /1H, ' LENGTH OF PACKING CUBES=', I3, 00000810
2 /1H, ' DIMENSION OF CUBES=', I3, 00000820
3 /1H, ' EXPECTATION OF PACKING DENSITY=', 1PE15.7, 00000830
4 /1H, ' NUMBER OF COMBINATION=', I10) 00000840
C                                              00000850
RETURN                                       00000860
END                                          00000870

```

```

LENGTH OF A CUBE= 4
LENGTH OF PACKING CUBES= 2
DIMENSION OF CUBES= 3
EXPECTATION OF PACKING DENSITY= 6.16221760-01
NUMBER OF COMBINATION= 137911

```

の中から等確率でえらぶ。一般に \vec{A}_k は $\vec{A}_1, \vec{A}_2, \dots, \vec{A}_{k-1}$ とまじわらない n^m 立方体の中から等確率でえらぶものとする。このようにして n^m 立方体をつめるすきまのなくなるまでつめていく。これが $(2n)^m$ 立方体への n^m 立方体のランダムパッキングである。その結果つめられた n^m 立方体の個数の期待値をもとめる方法を考える。上記ランダムパッキングの実験において $\vec{A}_1, \vec{A}_2, \dots, \vec{A}_N$ なる位置に n^m 立方体がランダムにつめられていったとする。 $C_1, C_2, C_3, \dots, C_N$ なる集合を考える。 C_1 はなにもつまっていない状態において \vec{A}_1 のとりうるすべての位置からなる集合とし、 C_2 は \vec{A}_1 が存在するという条件のもとで、つぎの n^m 立方体 \vec{A}_2 をつめうるすべての位置からなる集合とする。 C_k は $\vec{A}_1, \vec{A}_2, \dots, \vec{A}_{k-1}$ がつめられたという条件のもとで、つぎの n^m 立方体をつめうるすべての可能な位置の集合とする。したがって、この場合 C_{N+1} は空集合である。 C_k の要素の数を $|C_k|$ と書くことにする。上記の列、 $\vec{A}_1, \vec{A}_2, \dots, \vec{A}_N$ が得られる確率 $\left(\prod_{k=1}^{N-1} |C_k|\right)^{-1}$ 及び、つめられた個数 N との積 $N \left(\prod_{k=1}^{N-1} |C_k|\right)^{-1}$ を計算する。つぎに C_N から \vec{A}_N をとりのぞき、これをあらたに C_N とよぶことにする。 C_N が空集合でない場合、 C_N に上述のやりかたでさらにつめていく。空集合であれば \vec{A}_{N-k} をとりのぞいたものが空集合にならない C_{N-k} が得られる k まで前にもどるものとする。すなわち、 \vec{A}_{N-k} をとりのぞいたあらたな C_{N-k} のなかへのランダムパッキングの列を考え、それをあらたに $\vec{A}_{N-k}, \vec{A}_{N-k+1}, \dots, \vec{A}_{N'}$ とすることにす。このようにして得られたあらたな $\vec{A}_1, \vec{A}_2, \dots, \vec{A}_{N'}$ 及び $C_1, C_2, \dots, C_{N'}$ について同様に確率 $\left(\prod_{i=1}^{N'-1} |C_i|\right)^{-1}$ 及び個数との積 $N' \left(\sum_{i=1}^{N'-1} |C_i|\right)^{-1}$ を計算する。ここで $\vec{A}_1, \vec{A}_2, \dots, \vec{A}_{N-k-1}$ 及び $C_1, C_2, \dots, C_{N-k-1}$ は最初に考えた長さ N の列と共通である。この $\vec{A}_1, \vec{A}_2, \dots, \vec{A}_{N'}$ 及び $C_1, C_2, \dots, C_{N'}$ について上記と同様なことを行い、 $\vec{A}_1, \vec{A}_2, \dots, \vec{A}_{N''}$ 及び $C_1, C_2, \dots, C_{N''}$ が得られる。このような操作を C_1 が空集合になるまで行う。得られた個数と確率の積の総和を 2^m でわったものが充填率の期待値である。 $n=2$ の場合について1次元から3次元まで計算した結果(表1)、及び計算機プログラムを示す。

表 2 計算機実験によって求めた充填率 ($n=2$)

次元 m	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
充填率の標本平均 E_m	0.8348	0.7112	0.6157	0.5481	0.4927	0.4508	0.4212	0.3958	0.3762	0.3631	0.3488
充填率の標本標準偏差	0.2352	0.2196	0.1790	0.1385	0.1044	0.0773	0.0548	0.0404	0.0277	0.0178	0.0117
実験回数	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	3000	500	100	15
E_{m+1}/E_m	0.8519	0.8657	0.8902	0.8989	0.9150	0.9343	0.9397	0.9505	0.9652	0.9606	

3次元の場合、8個つめることができる。したがって上記の方法によれば少なくとも $8! = 40320$ 個の頂を求め和をとる必要がある。 $n=2$ の場合、表1にあるように137911個の頂を求め和をとる必要があり、統計数理研究所の電子計算機M200により、26.27秒かかっている。4次元の場合16個つめることができる。したがって少なくとも $16!$ 個の頂を求め和をとる必要があり、計算の実行は現実的には不可能である。表1は精度34桁による計算結果である。

表2においては11次元まで計算機実験により求めた値を示す。次元があがるにつれて E_{m+1}/E_m は1に近づいて行くように見える。そうであることが証明できればおもしろいと思われる

が、これは今後明らかにすべき問題である。

謝 辞

有益な指摘をいただいた査読者の方にあつく感謝する。

参 考 文 献

- [1] Akeda, Y. and Hori, M. (1976). On random sequential packing in two and three dimensions, *Biometrika*, **63**, 361-366.
- [2] Bernal, J.D. and Mason, J. (1960). Co-ordination of randomly packed spheres, *Nature*, **188**, 910-911.
- [3] Blaisdell, B.E. and Solomon, H. (1970). On random sequential packing in the plane and a conjecture of Palásti, *J. Appl. Prob.*, **7**, 667-698.
- [4] Blaisdell, B.E. and Solomon, H. (1982). Random sequential packing in Euclidean spaces of dimensions three and four and a conjecture of Palásti, *J. Appl. Prob.*, **19**, 382-390.
- [5] Dvoretzky, A. and Robbins, H. (1964). On the 'parking problem', *Publ. Math. Inst. Hung. Acad. Sci.*, **9**, 209-226.
- [6] Higuti, I. (1960). A statistical study of random packing of unequal spheres, *Ann. Inst. Statist. Math.*, **12**, 257-271.
- [7] Itoh, Y. (1980). On the minimum of gaps generated by one-dimensional random packing, *J. Appl. Prob.*, **17**, 134-144.
- [8] Rényi, A. (1958). On a one-dimensional problem concerning space-filling, *Publ. Math. Inst. Hung. Acad. Sci.*, **3**, 109-127.
- [9] Tanemura, M. (1979). On random complete packing by discs, *Ann. Inst. Statist. Math.*, **31**, 351-365.

On Packing Density by a Discrete Random Sequential Packing
of Cubes in a Space of m Dimension

Yoshiaki Itoh and Sumie Ueda
(The Institute of Statistical Mathematics)

Except one dimensional case, random packing is generally very difficult to be treated theoretically. Very few is known about the packing density in case of higher dimensions. However, the difficulty could be reduced if discrete sequential packings are considered. In this article we investigate random homothetic packing of m -dimensional cubes into a larger m -dimensional cube. The expectation E_m of the packing density is estimated both by theoretical enumeration and by numerical experiment for a simple case. Imagine the m -dimensional cubic lattice with unit lattice vector in an m -dimensional cube of side length $2n$. The vertices of the cube are also lattice points. m -dimensional cubes of side length n are put sequentially into the larger cube so as each vertex coincides with one of the lattice points. The position of the smaller cubes is chosen at random unless the cube extrudes out of the larger cube or overlaps the cubes already put. In practice, the numerical calculation of E_m is very complicated and needs a lot of computational time, so we can do for only first few dimensions; up to the case of three dimension. The results are shown in Table 1. The estimation of E_m by experiment was executed up to 11 dimension and the results are shown in Table 2. It seems that E_{m+1}/E_m increases with the dimension m and tends to 1 as m becomes sufficiently large.